



学校だより

川越市立山田中学校

令和2年11月5日 発行

「やって良かったね」

校長 大澤由美子

10月30日に開催された体育祭は、とても素晴らしいものになりました。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止を第一に考え、例年通りにできないことがいろいろあります。体育祭もプログラムを変え、事前の取組や練習にかける時間を減らしての実施となりました。

「何ができるだろうか」「どうすればできるだろうか」、教職員はいつもそれを考えています。そして、生徒は、それを理解し、前向きな気持ちで一生懸命取り組んでいます。体育祭においても、それがはっきり見えました。生徒達は、限られた時間の中で、集中して練習に取り組み、当日はその成果を発揮してくれました。本校が誇る入場行進やラジオ体操は、今年も見事な仕上がりになりました。また、手指消毒や進行、種目の内容等、例年と異なる点についても混乱無くやり遂げてくれたと思います。コロナ禍ではありますが、昨年度からの取組を受けて、当日、特別に4人の市役所職員がラジオ体操の視察にいらっしゃいました。そこで、ラジオ体操はもちろん、入場行進や退場などの態度や姿勢についても、これまでにどの学校でも見たことがないほど大変素晴らしいと、お褒めの言葉をいただきました。

「『やって良かったね』と笑顔で言える行事を作り上げることができるように、皆で頑張っていきましょう」。これは、2学期の始業式で、私が話したことです。とても嬉しいことに、その後、校内でこの言葉をよく耳にします。体育祭の取組の中で、団長や体育委員をはじめとする様々なリーダーが、この言葉をまわりに投げかけてくれていました。私の願いをしっかりと受け止めてくれたこと、そして、それができる生徒の力に、大きな喜びを感じています。

3年生は下級生をリードし、団をしっかりとまとめてくれました。そして、下級生に素晴らしい手本を示し、山田中学校の体育祭を次につなげてくれました。例年とは違う体育祭の良さも見えたように思います。できることへの喜びを素直に感じ、頑張る姿は、本当に立派でした。悔いなく、中学校最後の体育祭を終えることができたのではないのでしょうか。

2年生は、3年生を支え、よりよい体育祭にするために頑張ってくれました。また、競技の様子などから、1年間の成長を強く感じました。1年間の積み重ねの大きさを改めて実感します。来年は自分達が最上級生になるという立場を自覚して、3年生からのバトンを引き継いでくれたと思います。

1年生にとっては、入学して初めての大きな行事でした。中学校の体育祭がどのようなものなのかを知り、先輩達の姿を見て一生懸命についてきていたと思います。中学生の顔つきで、中学生の動きを見せてくれました。

体育祭当日は、一人一人にとって、そして、山田中学校にとって、かけがえのない良い一日になったと思います。「やって良かったね」と笑顔で言える体育祭を、見事に作り上げてくれた生徒と教職員を誇りに思います。